平成２８年度　第６回　潮来市地域公共交通活性化協議会　議事録

会議の名称	平成２８年度　第６回　潮来市地域公共交通活性化協議会
開催日時	平成２９年３月３１日（金）　１４：００～１５：００
開催場所	潮来市立中央公民館　３Ｆ　研修室
出席者	澤畠委員、鬼澤委員、長津委員（代理：長谷川委員）、廣瀬委員（代理：渡邊委員）、小峰委員、武藤委員、池田委員、柏谷委員、塚本委員、髙塚委員（代理：藤岡委員）、山野委員、今泉委員、岡本委員、庄司委員、柿崎委員、寺田委員（代理：土子委員）、大久保委員、大堀委員（代理：安原委員） （委員数：１８名） 事務局：潮来市総務部秘書政策課　塙課長、大川係長、澤口主幹
欠席者	飯塚委員、勝家委員、塙委員、岩本委員 （委員数：４名）
会議次第	１．開会 ２．会長挨拶 ３．協議事項 （１）パブリックコメントの結果について （２）潮来市地域公共交通網形成計画の策定について ４．その他 ５．閉会
会議における主な決定事項	協議事項（１） ・資料１のとおり承認された。 協議事項（２） ・資料２のとおり承認された。
議事の経過及び発言の要旨	別紙のとおり

【別紙】議事の経過及び発言の要旨

潮来市地域公共交通活性化協議会　塙　事務局長が司会を務めた。

１．開会

１４：００に開会した。

２．会長挨拶

年度末最終日という大変お忙しい中、潮来市地域公共交通活性化協議会会議にご出席をいただき感謝申し上げます。本年度第６回目の会議となります。本日の協議事項としましては、今年２月２３日から３月８日にかけて実施しました網形成計画案のパブリックコメントの結果に関するご報告が一点と本協議会の今年度のミッションとなっております潮来市地域公共交通網形成計画の策定に関する協議の二点となっております。委員の皆様におかれましては、昨年度末の設立会議から当協議会へのご参画をいただき活発なご議論をいただきました。深く感謝申し上げます。また、来年度につきましては、網形成計画の実施計画を策定する予定となっておりますので、引き続きご協力のほどお願い申し上げます。

本日もこれまで同様に委員の皆様からの忌憚のないご意見をいただければと存じますので、どうぞよろしくお願いします。

３．協議事項

本協議会規約第７条第２項の規定により、副会長である今泉委員が議長を務めた。

（１）パブリックコメントの結果について

・事務局より資料１について説明後、異議なしの声により承認された。

（２）潮来市地域公共交通網形成計画の策定について

・事務局より資料２について説明後、以下の質疑応答があった。

委　　員：資料２のＰ７５に各種の事業スケジュールが記載されているが、来年度以降、優先的に取り組む事業等はあるのか。

事 務 局：現在、茨城県が事務局となる鹿行地域公共交通確保対策協議会において、鹿行地域の公共交通確保対策が協議されており、その中で市町村間を結ぶ広域連携路線バスの実証運行が検討されている。この取り組みは、地方創生推進交付金を財源に計画されているものであり、具体的なルートとしては、行方市と潮来市、鹿嶋市と潮来市を結ぶ２つのルートが検討されている状況である。関係者の合意形成を図り実証運行に着手していきたいと考えている。

委　　員：鹿行北浦ラインに関する市民の声として、乗客が少なく空気を運んでいるという意見が挙げられている。補助金を活用して運行しているとのことだが、補助金が無くなった場合、運行はどうなるのか。民間のバス事業者が単独で運行した場合、採算がとれる路線なのか。また、潮来市内では、東関東自動車道水戸線、国道５１号バイパス、国道３５５号バイパス等の各種の道路整備が予定されているが、現在の進捗、今後の見通しはどのような状況なのか。

委　員：採算性を完全に度外視して鹿行北浦ラインの運行を継続していくことについてはリスク等があると認識しており、今後の鹿行北浦ラインの運行については、一定の評価を行いながら、今後検討していくことになるかと考えている。ただし、そもそも鹿行北浦ラインは、民間事業者では維持が出来ずに廃止になった路線であるため、最初から黒字で運行できるとは考えていない。しかしながら、乗客が少ない現在の状況を放置することは出来ないので、乗客が増えるように努力はしていく。運行ダイヤや乗り継ぎ性等の改善を行い、より有効に活用していく必要があるという認識は持っている。今後、潮来市の地域公共交通の実施計画を立案していく中で、鹿行北浦ラインをどのように活用出来るかを検討していくべきだと思っている。

委　員：国道５１号バイパスについては、一部区間で工事は着手されているが用地取得が完了していない箇所もあり、完成の時期は明確に示されていない状況である。東関東自動車道水戸線の延伸についても、一部区間で工事は着手されている。潮来市～鉾田市間については、用地取得を行っている段階であり、用地の取得率は 80%を超えていると聞いている。期成同盟会としては、平成 32 年の東京オリンピックまでには開通できるように工事を進めてほしいという要望を出している。今後も用地取得が完了した区間から、逐次工事を進めていくとは聞いており、茨城県、国土交通省とも連携して用地取得を進めている状況である。このため、完成時期を明確に申し上げることは出来ない状況である。

委　員：国道３５５号バイパスについては、潮来土木事務所管轄の区間のうち、国道５１号から繁昌潮来線までの一部区間が暫定２車線で供用済みとなっており、その先の区間については鋭意工事を進めているところである。復興事業の一環として実施している関係上、平成 32 年までには防災計画に位置付けられているかすみの郷公園までは何とか暫定で供用させたいと考えている。その先の区間については、用地等の問題もあり供用開始については未定の状況である。

委　員：潮来駅江寺線の進捗はどうなっているのか。

委　員：潮来駅江寺線については、都市計画決定をした上で一部区間の工事に着手したが、並走する国道５１号バイパスの都市計画決定がなされた時点で潮来駅江寺線の都市計画は廃止された。現在、途中で止まっている所から先の区間については、１－１０号線として事業を進めており、道路を北側へ延伸し上戸地区の道路と結ぶ計画で工事を進める予定となっている。今年度は、実施設計、用地測量等を実施し、平成２９年度は用地買収に着手する予定となっている。

委　員：鹿行北浦ラインについては、利用者数が少ない状況であるので利用者を増やすための取り組みを実施していく必要がある。利用者数を増やす取り組みとしては、様々なことが考えられるが、現在は全区間を往復する運行形態となっているが、もう１台追加し２台で半分の区間をピストン運行するなどすると運行頻度が上がり、利便性の向上を感じてもらえるのではないか。運行距離が長い路線は、需要が薄まる傾向があるので、運行を継続するのであれば、来年度はもっと乗客が増えるような方策を考えるべきである。運行を廃止するのは簡単だが、せっかく運行が始まったので廃止せずに継続できる方法を考えていくべ

きである。

委　　員：先日、鹿行北浦ラインに乗車した。感想としては、乗り心地が良く、景色も良かったので観光としては活用できるのではないかと思っている。月に１回でも良いので、市民に鹿行北浦ラインに乗車してもらえるようになればよいと思う。また、児童にも乗車してもらえるような取り組みを実施してもよいのではないか。

事 務 局：児童にも是非、乗車してもらいたいと思っている。また、高齢者については、路線バスに乗り慣れていない方も多いと思う。来年度はより多くの方に乗車してもらえるよう、市民を対象とした試乗体験等の取り組みを実施していきたいと考えている。

・以上の質疑応答後、資料２のとおり承認された。

・協議事項がすべて終了したため議長が解任され、以降、事務局長が司会を務めた。

４．その他

・事務局より、鹿行北浦ラインの現状について資料を用いて説明があった。

・事務局より、来年度の事業計画の概要について説明があった。

５．閉会

１５：００に閉会した。